

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平4-35562

⑬ Int. Cl.⁵
H 04 M 11/10

識別記号

庁内整理番号
7117-5K

⑭ 公開 平成4年(1992)2月6日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 受発注システム

⑯ 特 願 平2-142784

⑰ 出 願 平2(1990)5月31日

⑱ 発 明 者 高 橋 弘 道 埼玉県草加市吉町4-1-8 ベンテる株式会社草加工場内
⑱ 発 明 者 阿 部 清 美 埼玉県草加市吉町4-1-8 ベンテる株式会社草加工場内
⑱ 発 明 者 越 野 直 樹 東京都千代田区東神田2-1-6 ベンテる株式会社東京支店内
⑲ 出 願 人 ベンテる株式会社 東京都中央区日本橋小網町7番2号

明細書

1. 発明の名称

受発注システム

2. 特許請求の範囲

音声を記録再生する録音装置と、該録音装置を電話回線と接続し予め設定された音声コードを電話回線上に発信し、且つ受信した音声コードを弁別する制御回路と、該制御回路で制御したコードに従って制御される録音装置からの音声電話回線上に発信する発信装置と、電話回線を介して接続され前記発信装置に対して音声コードを発信することにより発信装置に接続された録音装置を制御回路を介して制御し、該発信装置を経由して送られて来る録音装置からの音声録音し、任意に再生する受信装置とからなることを特徴とする受発注システム。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、流通業務において使用される受発注システムであり、特にバーコードの付加されてい

ない商品の受発注システムに関するものである。

〔従来の技術〕

従来の受発注システムとしては、通常は注文書としての文書を用い、また急ぐ場合には発注者から電話による直接受注者に口頭での注文、FAXを利用した注文書の伝送、バーコードを始めとするコード化データの伝送が行なわれ入る。

〔発明が解決しようとする課題〕

従来のシステムの場合、文書によるものの場合時間が掛り、電話での直接注文は、商品名、商品コード等の聞き間違いによるミスが発生し易く、FAXでの注文は複数発注先がある場合に発注先を区別して送る必要があり、コード化データの伝送ではコード化された物しか利用出来ないという不都合があった。

〔課題を解決するための手段〕

本発明は上述した従来の問題点に鑑みなされたもので、音声を記録再生する録音装置と、該録音装置を電話回線と接続し予め設定された音声コードを電話回線上に発信し、且つ受信した音声コー

ドを弁別する制御回路と、該制御回路で制御したコードに従って制御される録音装置からの音声を電話回線上に発信する発信装置と、電話回線を介して接続され前記発信装置に対して音声コードを発信することにより発信装置に接続された録音装置を制御回路を介して制御し、該発信装置を経由して送られて来る録音装置からの音声を録音し、任意に再生する受信装置とからなる受発注システムを提案するものである。

〔作用〕

本発明の受発注システムでは、注文者が受注先（注文先）を指定しながら音声で注文を録音し、この録音された音声を、再生しながら電話回線で受注先に音声で伝え、この受信した音声を録音し、任意の時に再生して注文を確認できるものである。

〔実施例〕

本発明を添付図面を参照して説明する。第1図は本発明の全体模式図、第2図はデータ蓄積状態図である。

発信端末1には注文する相手先をトーン化され

を口頭で録音する。以後発注先がまだある場合は順次コード3、音声を録音する。

次に実際に注文を行なう場合を説明する。始めに注文者から発注者に電話を掛けて行なう場合を説明する。まず、注文者は電話を発注者に掛け、相手が出たことを確認し、ここで先に録音しておいたテープ11を再生する。制御回路3は現在電話を掛けている発注先のコードに続いている音声データだけを再生し、発信装置4を介して電話回線に伝送し、受信端末6の発信装置9（受信装置）に印加する。受信端末6は受信したデータから相手先（注文者）のコードを確認し、自分に対する注文であることをコードから確認して、音声での注文を録音装置7に録音する。

録音された注文は、適宜オペレータが聞き取りながらコンピュータに入力し、注文データとして利用する。

発注先（問屋）から注文者（店）の注文をデータとして取り込む場合を説明すると、先に説明した注文データがテープ11に録音されているもの

とコードで録音し、商品名及び商品コード等を音声（アナログ）で録音し、再生する録音装置2と、この録音装置2で録音したトーン化されたコード及び音声データを制御回路3で制御されて、電話回線に発信する発信装置4と、発注先を指定するスイッチ5が配置されており、受信端末6も発信端末1と同様に、録音装置7、制御回路8、発信装置9及びスイッチ10が配置されている。

データの記録の方法について説明すると、図示しない電源スイッチを入れ、最初に自分のコード（注文者コード）をトーン化されたコードで記録し、発信端末1のスイッチ5から発注先を選択し、その発注先に対応したスイッチを入れるとテープ11の先頭に発注先コードがトーン化されたコード信号でコード1（第2図参照）として記録され、続いて注文する商品名及び商品コード（符号）を口頭で録音する。引き続いて他の発注先がある場合はスイッチ5の発注先スイッチを選択してコード2としてテープ11にトーン化されたコード信号で記録し、続いて商品名、商品コード、数量等

とする。発注先から注文者に順次電話を掛け、相手が出たことを確認し、注文者のコードを受信し、次いで発注者コードを送信する。ここで注文者側の録音装置2がデータを再生して、発注者コードに対応した音声データだけを再生送信する。

〔発明の効果〕

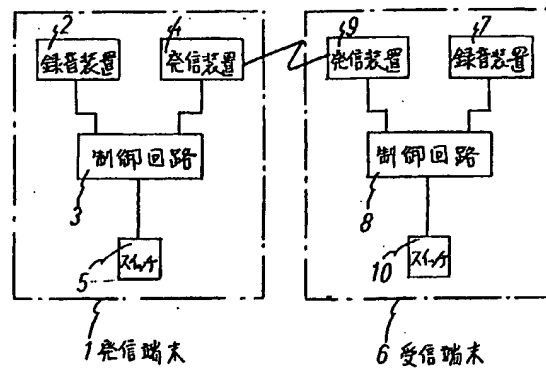
以上説明したように本発明によれば、発注先の間違いが生じなく、更にコード化されていない商品の注文も自由にできるものである。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例を示し、第1図は全体模式図、第2図はデータ蓄積状態図である。

- 1 …… 発信端末、2、7 …… 録音装置、
3、8 …… 制御回路、4、9 …… 発信装置、
5、10 …… スイッチ、6 …… 受信端末、
11 …… テープ

第 1 図
全体模式図



第 2 図
データ蓄積状態図

